

# 簿記 3 級

# 確認テスト

## 目次

第 1 回	貸借対照表・損益計算書	第 2 回	仕訳・勘定
第 3 回	試算表	第 4 回	帳簿の締切
第 5 回	現金預金	第 6 回	商品売買
第 7 回	売上原価の計算	第 8 回	商品有高帳
第 9 回	貸倒引当金	第 10 回	手形
第 11 回	有形固定資産	第 12 回	株式の発行・配当金・税金
第 13 回	費用収益の前払・未払・前受・前払	第 14 回	その他の債権・債務
第 15 回	伝票		

## (制限時間)

- ※ 1 回あたりの制限時間は 5 分、15 枚では 75 分です。
- ※ ただし、簿記 3 級を受験される方が初めて解く際には、1 枚 10 分でも構いません。
- ※ 簿記 2 級を勉強されている方が復習のために解く際には、1 枚 5 分が制限時間です。

## (問題を解く際の注意点)

- 商品売買の問題で、問題文に指示がない場合は、3 分法で解くようにして下さい。

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 1 回 ～

氏 名 \_\_\_\_\_

採 点 欄

1. 以下の資料にもとづいて、当期の損益計算書と期末の貸借対照表を作成しなさい。なお、期首に繰越利益剰余金の残高はなかった。また、商品売買については分記法を採用している。

現 金	¥100,000	買 掛 金	¥ 80,000	給 料	¥180,000
商品売買益	¥350,000	備 品	¥300,000	借 入 金	¥250,000
支払家賃	¥ 60,000	受取手数料	¥ 10,000	売 掛 金	¥200,000
商 品	¥400,000	消耗品費	¥ 15,000	光 熱 費	¥ 35,000
資 本 金	¥600,000				

損 益 計 算 書

○1年4月1日から○2年3月31日まで

費 用	金 額	収 益	金 額
( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
( )	( )		
( )	( )		
( )	( )		
	( )		( )

貸 借 対 照 表

○2年3月31日まで

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
( )	( )	( )	( )
	( )		( )

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 2 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

1. 以下の取引を仕訳し、勘定に転記しなさい（日付、相手勘定科目も記入すること）。

4月1日； 甲府市でワイン販売の会社を開業した。開業にあたって経営者は、手元の現金  
¥1,500,000 と普通預金¥500,000 を出資した。

4月4日； 商品陳列用の棚を¥100,000 で購入し、代金は現金で支払った。

4月8日； 山梨銀行より¥300,000 を借り入れ、普通預金に預け入れた。

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
4月1日				
4月4日				
4月8日				

現 金

資 本 金

普 通 預 金

借 入 金

備 品

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 3 回 ～

氏 名 \_\_\_\_\_

採 点 欄

以下の勘定にもとづいて、合計残高試算表を作成しなさい。

<u>現 金</u>		<u>売 掛 金</u>		<u>商 品</u>		<u>備 品</u>	
200,000	40,000	250,000	600,000	150,000	400,000	100,000	
600,000	80,000	550,000		300,000			
	400,000						
<u>買 掛 金</u>		<u>借 入 金</u>		<u>資 本 金</u>		<u>商品売買益</u>	
400,000	180,000		20,000		500,000		150,000
	300,000						
<u>支 払 家 賃</u>		<u>給 料</u>					
80,000		40,000					

合 計 残 高 試 算 表

○2年3月31日

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
		現 金		
		売 掛 金		
		商 品		
		備 品		
		買 掛 金		
		借 入 金		
		資 本 金		
		商品売買益		
		支 払 家 賃		
		給 料		

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 4 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

埼玉商事㈱の収益、費用の各勘定残高は、下記のとおりである。以下の各問に答えなさい。  
なお、商品売買に関する取引は、分記法にて仕訳を行っている。

勘定残高

商品売買益	¥120,000	受取利息	¥10,000
給 料	¥70,000	消耗品費	¥20,000

(1) 収益の各勘定残高を損益勘定に振り替える仕訳を行いなさい。

(2) 費用の各勘定残高を損益勘定に振り替える仕訳を行いなさい。

(3) 当期純利益を繰越利益剰余金勘定に振り替える仕訳を行いなさい。

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 5 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。なお商品売買の仕訳方法は、分記法を採用している。

1. 北海道物産(株)は得意先仙台商事(株)に、原価¥150,000 の商品を¥250,000 で販売し、代金のうち¥200,000 は同社振出しの小切手で受け取り、残額は掛とした。
2. 北海道物産(株)は上記 1.の掛代金について、仙台商事(株)より当社振出しの小切手で受け取った。
3. 新潟水産(株)は現金の実際有高を調べてみたところ、帳簿残高よりも¥84,000 不足していたので現金過不足として処理した。
4. 山梨飲料(株)は商品を¥480,000 で仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、山梨飲料(株)の当座預金残高は¥400,000 であったが、銀行との間で当座借越契約を¥500,000 の限度で結んでいる。
5. 小口現金係から次の支払報告を受け、ただちに小切手を振り出して資金の補給をした。なお、当社はインプレストシステムを採用している。小口現金勘定を用いること。  
交通費 ¥30,000      通信費 ¥20,000      消耗品費 ¥10,000

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 6 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。なお、商品売買に関する取引は3分法にて仕訳を行うこと。

1. 長野産業㈱より商品¥72,000を仕入れ、代金は掛とした。なお、購入の際に運賃¥2,000を現金で支払った。
2. 京都観光㈱に商品を¥120,000で販売し、代金は同社振出しの小切手で受け取った。なお、販売にあたり発送費¥2,500を現金で支払った。
3. 大阪食品㈱に商品を¥150,000で販売し、代金は掛とした。なお、販売にあたり大阪食品㈱が負担すべき運賃¥3,000を当社が現金で立替払いした。この立替については、売掛金に含めて処理するものとする。
4. 広島造船㈱に掛で販売した¥300,000の商品にキズがあったとの連絡があり、すべて返品されることとなった。
5. 高知製鋼㈱より商品を¥85,000で仕入れていたが、検品の結果、品違いであることが判明したため、すべて返品することとした。返金は先方振出しの小切手で受け取った。

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 7 回 ～

採点欄

氏名 \_\_\_\_\_

次の商品売買に係る各勘定残高にもとづいて、決算整理仕訳と損益勘定への振替仕訳をし、各勘定に転記しなさい。なお、期末商品棚卸高は¥240,000であった。

繰越商品			
4/1	前期繰越	300,000	3/31 ( ) ( )
3/31	( ) ( )	( )	3/31 ( ) ( )
		( )	( )
4/1	( ) ( )	( )	
売 上			
3/31	( ) ( )		当期売上高 2,300,000
仕 入			
	当期仕入高	1,500,000	3/31 ( ) ( )
3/31	( ) ( )	( )	3/31 ( ) ( )
		( )	( )
損 益			
3/31	( ) ( )	( )	3/31 ( ) ( )

決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額

損益勘定への振替仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額



簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 8 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

以下の資料にもとづいて、①先入先出法、②移動平均法で商品有高帳を作成しなさい。ただし、締め切りは行わなくてもよい。

2月1日	前月繰越	100個	@¥500	2月5日	仕入	300個	@¥520
2月12日	売上	200個	@¥700	2月20日	仕入	400個	@¥530
2月25日	売上	350個	@¥750				

① 先入先出法

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

○年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額

② 移動平均法

商 品 有 高 帳

(移動平均法)

○年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 9 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 商品¥120,000 をクレジット払いの条件で販売した。なお、信販会社へのクレジット手数料は販売代金の5%であり、販売時に認識する。
2. 得意先ABC株式会社が倒産し、ABC株式会社に対する売掛金¥90,000 が回収不能となった。なお、貸倒引当金は設定されていない。
3. 決算にあたり、売掛金残高¥5,000,000 に対して3%の貸倒れを見積もった。ただし、貸倒引当金勘定残高が¥100,000 ある。貸倒引当金の設定は、差額補充法で行っている。
4. 得意先 XYZ 株式会社が倒産し、XYZ 株式会社に対する売掛金¥200,000 が回収不能となった。なお、貸倒引当金勘定残高が¥150,000 ある。
5. 過年度において貸倒れ処理していた売掛金¥40,000 が、当期になって現金で回収された。

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 10 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 福岡建設(株)は、長崎鉄工(株)より商品¥230,000 を仕入れ、代金は約束手形を振り出して支払った。
2. 宮崎農業(株)は、大分食品(株)に商品を¥180,000 で販売し、代金は大分食品(株)振出しの約束手形で受け取った。
3. 佐賀農園(株)に¥500,000 を貸し付け、同額の約束手形を受け取った。なお、利息¥3,000 を差し引いた残額を、小切手を振り出して渡した。
4. 鹿児島商事(株)は、得意先沖縄工業(株)に対する売掛金¥250,000 について、沖縄工業(株)の承諾を得て電子記録債権の発生記録の請求を行った。
5. 愛媛化工(株)は、徳島製菓(株)に対する買掛金¥200,000 の支払いを電子債権記録機関で行うため、取引銀行を通して債務の発生記録を行った。

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 11 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 備品を¥750,000 で購入し、代金は小切手を振り出して支払った。なお、購入にあたって発生した引取運賃¥5,000 は現金で支払った。
2. 20 年前に購入した建物に対して、現金¥1,000,000 を支出してリフォームを施したところ、耐用年数が 5 年延びた。
3. 会社の窓ガラスが破損したため、現金¥50,000 を支出し修繕を行った。
4. 決算にあたり、当期首に取得した建物（取得原価¥2,000,000、耐用年数 10 年、残存価額は取得原価の 10%）について定額法により減価償却を行った。なお、仕訳方法は間接法を採用している。
5. 取得原価¥1,000,000、減価償却累計額¥540,000 の備品を売却し、代金¥450,000 は小切手で受け取った。

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 12 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 会社の設立にあたり、株式 250 株を 1 株あたり ¥50,000 の価額で発行し、払込金は当座預金とした。
2. 決算にあたり、当期純利益 ¥1,300,000 を計上した。
3. 山口酒造(株)は、株主総会を開催して繰越利益剰余金の配当を以下のように決定した。  
利益準備金 ; ¥100,000                      配当金 ; ¥1,000,000
4. 土地に対する固定資産税 ¥70,000 を現金で納付した。
5. 岡山商事(株)は、決算を迎え、法人税等の金額が ¥600,000 と確定した。なお、岡山商事(株)は中間申告を行っており、¥280,000 の中間納付を行っている。
6. 決算にあたり、消費税の納付額を計算し確定する。当社は税抜方式を採用しており、期末における仮払消費税勘定残高は ¥560,000、仮受消費税勘定残高は ¥720,000 である。

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 13 回 ～

採点欄

氏名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 取引先に対し、¥1,000,000 を年利 3%、利払日 6 月末、12 月末の条件で貸し付けている。  
決算（3 月 31 日）にあたり、利息の未収分を計上する。
2. 家賃の支払いを 6 月末と 12 月末の年 2 回、半年あたり ¥180,000 の後払いで行っている。  
決算（3 月 31 日）にあたり、家賃の未払分を計上する。
3. 地代の受取りを 12 月末日の年 1 回、1 年あたり ¥300,000 の前払いで受け取っている。決算  
（3 月 31 日）にあたり、地代の前受けを計上する。
4. 1 年分の火災保険料を、2 月 1 日に ¥24,000 支払っている。決算（3 月 31 日）にあたり、  
保険料の前払いを計上する。
5. 切手を ¥30,000 で購入し、通信費勘定で処理しておいた。決算にあたり未使用分を調べたと  
ころ ¥5,000 分残っていることが判明したので、適当な勘定に振り替えることにした。

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 14 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 当社は取引先の神奈川物産㈱に対し、期間 3 ヶ月、利率年 4%で¥1,000,000 を貸し付けていたが、本日期日が到来し利息とともに小切手で返済を受けた。
2. 営業用の車両を¥1,500,000 で購入し、代金は月末払いとした。
3. 当社は得意先千葉興産㈱より、1 週間後に販売する商品の手付金¥10,000 を現金で受け取った。
4. 本月分の給料¥2,000,000 を支払うにあたり、所得税の源泉徴収分¥200,000 を差し引いて残額を現金で支払った。
5. 従業員の出張にあたり、旅費の概算額¥100,000 を現金で渡した。
6. 三重酒販㈱は、¥10,000 分のビールを販売し、代金はビール券で受け取った。

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 15 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

以下の取引について、振替伝票に必要な仕訳を行いなさい。

1. 商品を¥300,000 で仕入れ、代金のうち¥100,000 は現金で支払い、残額は掛とした。出金伝票の記入は次のとおりである。

出 金 伝 票	
仕 入	100,000

振 替 伝 票			
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

2. 商品を¥650,000 で売り上げ、代金のうち¥450,000 は現金で受け取り、残額は掛とした。入金伝票の記入は次のとおりである。

入 金 伝 票	
売 掛 金	450,000

振 替 伝 票			
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額



簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 1 回 ～

氏名 \_\_\_\_\_

1. 以下の資料にもとづいて、当期の損益計算書と期末の貸借対照表を作成しなさい。なお、期首に繰越利益剰余金の残高はなかった。また、商品売買については分記法を採用している。

現 金	¥100,000	買 掛 金	¥ 80,000	給 料	¥180,000
商品売買益	¥350,000	備 品	¥300,000	借 入 金	¥250,000
支払家賃	¥ 60,000	受取手数料	¥ 10,000	売 掛 金	¥200,000
商 品	¥400,000	消耗品費	¥ 15,000	光 熱 費	¥ 35,000
資 本 金	¥600,000				

損 益 計 算 書

○1年4月1日から○2年3月31日まで

費 用	金 額	収 益	金 額
★ ( 給 料 )	( 180,000 )	( 商品売買益 )	( 350,000 ) ★
( 支払家賃 )	( 60,000 )	( 受取手数料 )	( 10,000 )
★ ( 消耗品費 )	( 15,000 )		
( 光熱費 )	( 35,000 )		
★ ( 当期純利益 )	( 70,000 )		
	( 360,000 )		( 360,000 )

貸 借 対 照 表

○2年3月31日まで

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
★ ( 現 金 )	( 100,000 )	( 買掛金 )	( 80,000 ) ★
★ ( 売掛金 )	( 200,000 )	( 借入金 )	( 250,000 )
★ ( 商 品 )	( 400,000 )	( 資本金 )	( 600,000 ) ★
( 備 品 )	( 300,000 )	( 繰越利益剰余金 )	( 70,000 ) ★
	( 1,000,000 )		( 1,000,000 )

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 2 回 ～

氏名 \_\_\_\_\_

1. 以下の取引を仕訳し、勘定に転記しなさい (日付、相手勘定科目も記入すること)。

4月1日； 甲府市でワイン販売の会社を開業した。開業にあたって経営者は、手元の現金 ¥1,500,000 と普通預金 ¥500,000 を出資した。

4月4日； 商品陳列用の棚を ¥100,000 で購入し、代金は現金で支払った。

4月8日； 山梨銀行より ¥300,000 を借り入れ、普通預金に預け入れた。

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
★ 4月1日	現金 普通預金	1,500,000 500,000	資本金	2,000,000
★ 4月4日	備品	100,000	現金	100,000
★ 4月8日	普通預金	300,000	借入金	300,000

現金

資本金

★ ¼ 資本金 1,500,000	¼ 備品 100,000 ★
-------------------	----------------

¼ 諸口 2,000,000 ★
------------------

普通預金

借入金

★ ¼ 資本金 500,000	
★ ⅞ 借入金 300,000	

⅞ 普通預金 300,000 ★
------------------

備品

★ ¼ 現金 100,000	
----------------	--

(禁無断転載)

10点 × 10 = 100

採点欄

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 3 回 ～

氏名 \_\_\_\_\_

以下の勘定にもとづいて、合計残高試算表を作成しなさい。

現 金		売 掛 金		商 品		備 品	
200,000	40,000	250,000	600,000	150,000	400,000	100,000	
600,000	80,000	550,000		300,000			
	400,000						
買 掛 金		借 入 金		資 本 金		商品売買益	
400,000	180,000		20,000		500,000		150,000
	300,000						
支払家賃		給 料					
80,000		40,000					

合 計 残 高 試 算 表

○2年3月31日

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
280,000	800,000	現 金	520,000	
200,000	800,000	売 掛 金	600,000	
50,000	450,000	商 品	400,000	
100,000	100,000	備 品		
	400,000	買 掛 金	480,000	80,000
		借 入 金	20,000	20,000
		資 本 金	500,000	500,000
		商品売買益	150,000	150,000
80,000	80,000	支 払 家 賃		
40,000	40,000	給 料		
750,000	2,670,000		2,670,000	750,000

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 4 回 ～

採点欄

氏名 \_\_\_\_\_

埼玉商事㈱の収益、費用の各勘定残高は、下記のとおりである。以下の各問に答えなさい。  
 なお、商品売買に関する取引は、分記法にて仕訳を行っている。

勘定残高

商品売買益	¥120,000	受取利息	¥10,000
給料	¥70,000	消耗品費	¥20,000

- (1) 収益の各勘定残高を損益勘定に振り替える仕訳を行いなさい。 ★ 30点

商品売買益	120,000	損益	130,000
受取利息	10,000		

- (2) 費用の各勘定残高を損益勘定に振り替える仕訳を行いなさい。 ★ 30点

損益	90,000	給料	70,000
		消耗品費	20,000

- (3) 当期純利益を繰越利益剰余金勘定に振り替える仕訳を行いなさい。 ★ 40点

損益	40,000	繰越利益剰余金	40,000
----	--------	---------	--------

採点欄

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 5 回 ～

氏名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。なお商品売買の仕訳方法は、分記法を採用している。

1. 北海道物産(株)は得意先仙台商事(株)に、原価¥150,000 の商品を¥250,000 で販売し、代金のうち¥200,000 は同社振出しの小切手で受け取り、残額は掛とした。

現金	200,000	商品	150,000
売掛金	50,000	商品売買益	100,000

2. 北海道物産(株)は上記 1. の掛代金について、仙台商事(株)より当社振出しの小切手で受け取った。

当座預金	50,000	売掛金	50,000
------	--------	-----	--------

3. 新潟水産(株)は現金の実際有高を調べてみたところ、帳簿残高よりも¥84,000 不足していたので現金過不足として処理した。

現金過不足	84,000	現金	84,000
-------	--------	----	--------

4. 山梨飲料(株)は商品を¥480,000 で仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、山梨飲料(株)の当座預金残高は¥400,000 であったが、銀行との間で当座借越契約を¥500,000 の限度で結んでいる。

商品	480,000	当座預金	480,000
----	---------	------	---------

5. 小口現金係から次の支払報告を受け、ただちに小切手を振り出して資金の補給をした。なお、当社はインプレストシステムを採用している。小口現金勘定を用いること。

交通費	¥30,000	通信費	¥20,000	消耗品費	¥10,000
-----	---------	-----	---------	------	---------

*交通費	30,000	小口現金	60,000
通信費	20,000		
消耗品費	10,000		
小口現金	60,000	当座預金	60,000

\*交通費は旅費交通費でもよい。

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 6 回 ～

氏名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。なお、商品売買に関する取引は3分法にて仕訳を行うこと。

1. 長野産業(株)より商品 ¥72,000 を仕入れ、代金は掛とした。なお、購入の際に運賃 ¥2,000 を現金で支払った。

仕入	74,000	買掛金	72,000
		現金	2,000

2. 京都観光(株)に商品を ¥120,000 で販売し、代金は同社振出しの小切手で受け取った。なお、販売にあたり発送費 ¥2,500 を現金で支払った。

現金	120,000	売上	120,000
発送費	2,500	現金	2,500

3. 大阪食品(株)に商品を ¥150,000 で販売し、代金は掛とした。なお、販売にあたり大阪食品(株)が負担すべき運賃 ¥3,000 を当社が現金で立替払いした。この立替については、売掛金に含めて処理するものとする。

売掛金	153,000	売上	150,000
		現金	3,000

4. 広島造船(株)に掛で販売した ¥300,000 の商品にキズがあったとの連絡があり、すべて返品されることとなった。

売上	300,000	売掛金	300,000
----	---------	-----	---------

5. 高知製鋼(株)より商品を ¥85,000 で仕入れていたが、検品の結果、品違いであることが判明したため、すべて返品することとした。返金は先方振出しの小切手で受け取った。

現金	85,000	仕入	85,000
----	--------	----	--------

氏 名 \_\_\_\_\_

次の商品売買に係る各勘定残高にもとづいて、決算整理仕訳と損益勘定への振替仕訳をし、各勘定に転記しなさい。なお、期末商品棚卸高は¥240,000であった。

繰 越 商 品			
4/1 前期繰越	300,000	3/31 ★(仕入)	( 300,000 )
3/31 ★(仕入)	( 240,000 )	3/31 ★(次期繰越)	( 240,000 )
	( 540,000 )		( 540,000 )
4/1 (前期繰越)	( 240,000 )		
売 上			
3/31 ★(損益)	( 2,300,000 )	当期売上高	2,300,000
仕 入			
当期仕入高	1,500,000	3/31 ★(繰越商品)	( 240,000 )
3/31 (繰越商品)	( 300,000 )	3/31 ★(損益)	( 1,560,000 )
	( 1,800,000 )		( 1,800,000 )
損 益			
3/31 ★(仕入)	( 1,560,000 )	3/31 ★(売上)	( 2,300,000 )

## 決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	300,000	繰越商品	300,000
繰越商品	240,000	仕 入	240,000

## 損益勘定への振替仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
売 上	2,300,000	損 益	2,300,000
損 益	1,560,000	仕 入	1,560,000

(禁無断転載)

20点×5=100

簿記の教室 メイプル

3 級

確 認 テ ス ト

～ 第 8 回 ～

採 点 欄

氏 名 \_\_\_\_\_

以下の資料にもとづいて、①先入先出法、②移動平均法で商品有高帳を作成しなさい。ただし、締め切りは行わなくてもよい。

2月1日	前月繰越	100個	@¥500	2月5日	仕入	300個	@¥520
2月12日	売上	200個	@¥700	2月20日	仕入	400個	@¥530
2月25日	売上	350個	@¥750				

① 先入先出法

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

○年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
2	1 前月繰越	100	500	50,000				100	500	50,000
	5 仕入	300	520	156,000				300	520	156,000
	12 売上				100	500	50,000			
					100	520	52,000	200	520	104,000
	20 仕入	400	530	212,000				400	530	212,000
	25 売上				200	520	104,000			
					150	530	79,500	250	530	132,500

② 移動平均法

商 品 有 高 帳

(移動平均法)

○年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
2	1 前月繰越	100	500	50,000				100	500	50,000
	5 仕入	300	520	156,000				400	515	206,000
	12 売上				200	515	103,000	200	515	103,000
	20 仕入	400	530	212,000				600	525	315,000
	25 売上				350	525	183,750	250	525	131,250



1問 20点 × 5 = 100

採点欄

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 9 回 ～

氏名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 商品 ¥120,000 をクレジット払いの条件で販売した。なお、信販会社へのクレジット手数料は販売代金の 5% であり、販売時に認識する。

クレジット売掛金 114,000                      売上 120,000  
 支払手数料 6,000

2. 得意先 ABC 株式会社が倒産し、ABC 株式会社に対する売掛金 ¥90,000 が回収不能となった。なお、貸倒引当金は設定されていない。

貸倒損失 90,000                      売掛金 90,000

3. 決算にあたり、売掛金残高 ¥5,000,000 に対して 3% の貸倒れを見積もった。ただし、貸倒引当金勘定残高が ¥100,000 ある。貸倒引当金の設定は、差額補充法で行っている。

$$5,000,000 \times 3\% = 150,000$$

$$150,000 - 100,000 = \underline{\underline{50,000}}$$

貸倒引当金繰入 50,000                      貸倒引当金 50,000

4. 得意先 XYZ 株式会社が倒産し、XYZ 株式会社に対する売掛金 ¥200,000 が回収不能となった。なお、貸倒引当金勘定残高が ¥150,000 ある。

貸倒引当金 150,000                      売掛金 200,000  
 貸倒損失 50,000

5. 過年度において貸倒れ処理していた売掛金 ¥40,000 が、当期になって現金で回収された。

現金 40,000                      償却債権取立益 40,000



採点欄

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 11 回 ～

氏名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 備品を¥750,000 で購入し、代金は小切手を振り出して支払った。なお、購入にあたって発生した引取運賃¥5,000 は現金で支払った。

備品	750,000	当座預金	750,000
		現金	5,000

2. 20 年前に購入した建物に対して、現金¥1,000,000 を支出してリフォームを施したところ、耐用年数が 5 年延びた。

建物	1,000,000	現金	1,000,000
----	-----------	----	-----------

3. 会社の窓ガラスが破損したため、現金¥50,000 を支出し修繕を行った。

修繕費	50,000	現金	50,000
-----	--------	----	--------

4. 決算にあたり、当期首に取得した建物（取得原価¥2,000,000、耐用年数 10 年、残存価額は取得原価の 10%）について定額法により減価償却を行った。なお、仕訳方法は間接法を採用している。

$$\frac{2,000,000 \times 0.9}{10年} = \underline{\underline{180,000}}$$

減価償却費	180,000	* 減価償却累計額	180,000
-------	---------	-----------	---------

\* 減価償却累計額は建物減価償却累計額でもよい。

5. 取得原価¥1,000,000、減価償却累計額¥540,000 の備品を売却し、代金¥450,000 は小切手で受け取った。

* 減価償却累計額	540,000	備品	1,000,000
現金	450,000		
固定資産売却損	10,000		

\* 減価償却累計額は、

備品減価償却累計額でもよい。

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 12 回 ～

氏名 \_\_\_\_\_

採点欄

★★ 20点 × 2 = 40 }  
★ 15点 × 4 = 60 } 100

以下の取引を仕訳しなさい。

- ★★ 1. 会社の設立にあたり、株式 250 株を 1 株あたり ¥50,000 の価額で発行し、払込金は当座預金とした。  
 $250 \text{株} \times 50,000 \text{円} = \underline{12,500,000 \text{円}}$

当座預金 12,500,000      資本金 12,500,000

- ★ 2. 決算にあたり、当期純利益 ¥1,300,000 を計上した。

損益 1,300,000      繰越利益剰余金 1,300,000

- ★★ 3. 山口酒造(株)は、株主総会を開催して繰越利益剰余金の配当を以下のように決定した。

利益準備金 ; ¥100,000      配当金 ; ¥1,000,000

繰越利益剰余金 1,100,000      利益準備金 100,000  
未払配当金 1,000,000

- ★ 4. 土地に対する固定資産税 ¥70,000 を現金で納付した。

租税公課 70,000      現金 70,000

- ★ 5. 岡山商事(株)は、決算を迎え、法人税等の金額が ¥600,000 と確定した。なお、岡山商事(株)は中間申告を行っており、¥280,000 の中間納付を行っている。

法人税等 600,000      仮払法人税等 280,000  
未払法人税等 320,000

- ★ 6. 決算にあたり、消費税の納付額を計算し確定する。当社は税抜方式を採用しており、期末における仮払消費税勘定残高は ¥560,000、仮受消費税勘定残高は ¥720,000 である。

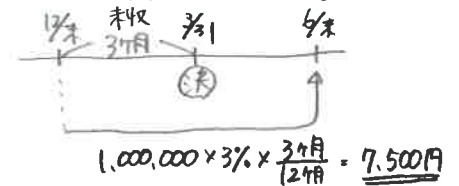
仮受消費税 720,000      仮払消費税 560,000  
未払消費税 160,000

氏名 \_\_\_\_\_

以下の取引を仕訳しなさい。

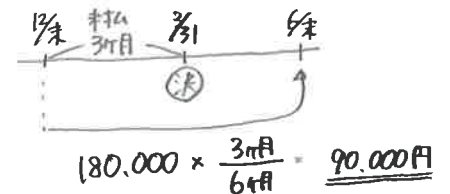
- 取引先に対し、¥1,000,000 を年利 3%、利払日 6 月末、12 月末の条件で貸し付けている。決算 (3 月 31 日) にあたり、利息の未収分を計上する。

未収利息 7,500      受取利息 7,500



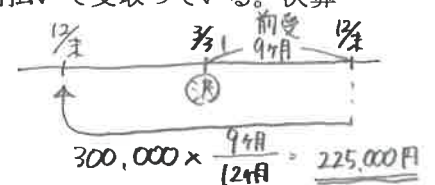
- 家賃の支払いを 6 月末と 12 月末の年 2 回、半年あたり ¥180,000 の後払いで行っている。決算 (3 月 31 日) にあたり、家賃の未払分を計上する。

支払家賃 90,000      未払家賃 90,000



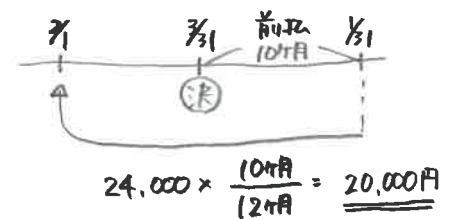
- 地代の受取りを 12 月末日の年 1 回、1 年あたり ¥300,000 の前払いで受取っている。決算 (3 月 31 日) にあたり、地代の前受けを計上する。

受取地代 225,000      前受地代 225,000



- 1 年分の火災保険料を、2 月 1 日に ¥24,000 支払っている。決算 (3 月 31 日) にあたり、保険料の前払いを計上する。

前払保険料 20,000      \* 保険料 20,000



\* 保険料は 支払保険料 でもよい

- 切手を ¥30,000 で購入し、通信費勘定で処理しておいた。決算にあたり未使用分を調べたところ ¥5,000 分残っていることが判明したので、適当な勘定に振り替えることにした。

貯蔵品 5,000      通信費 5,000

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 14 回 ～

氏名 \_\_\_\_\_

採点欄

★★ 20点 × 2 = 40  
★ 15点 × 4 = 60 } 100

以下の取引を仕訳しなさい。

- ★ ★ 1. 当社は取引先の神奈川県物産㈱に対し、期間 3 ヶ月、利率年 4% で ¥1,000,000 を貸し付けていたが、本日期日が到来し利息とともに小切手で返済を受けた。

$$1,000,000 \times 4\% \times \frac{3 \text{ 月}}{12 \text{ 月}} = \underline{\underline{10,000}}$$

現金	1,010,000	貸付金	1,000,000
		受取利息	10,000

- ★ 2. 営業用の車両を ¥1,500,000 で購入し、代金は月末払いとした。

※ 車両運搬具	1,500,000	未払金	1,500,000
---------	-----------	-----	-----------

※ 車両運搬具は 車両でもよい。

- ★ 3. 当社は得意先千葉県興産㈱より、1 週間後に販売する商品の手付金 ¥10,000 を現金で受け取った。

現金	10,000	前受金	10,000
----	--------	-----	--------

- ★ ★ 4. 本月分の給料 ¥2,000,000 を支払うにあたり、所得税の源泉徴収分 ¥200,000 を差し引いて残額を現金で支払った。

給料	2,000,000	※ 所得税預り金	200,000
		現金	1,800,000

※ 所得税預り金は 預り金 でもよい。

- ★ 5. 従業員の出張にあたり、旅費の概算額 ¥100,000 を現金で渡した。

仮払金	100,000	現金	100,000
-----	---------	----	---------

- ★ 6. 三重酒販㈱は、¥10,000 分のビールを販売し、代金はビール券で受け取った。

受取商品券	10,000	売上	10,000
-------	--------	----	--------

(禁無断転載)

1問 50点 × 2 = 100

採点欄

簿記の教室 メイプル

3 級

確認テスト

～ 第 15 回 ～

氏名 \_\_\_\_\_

以下の取引について、振替伝票に必要な仕訳を行いなさい。

1. 商品を¥300,000 で仕入れ、代金のうち¥100,000 は現金で支払い、残額は掛とした。出金伝票の記入は次のとおりである。

(本来あるべき仕訳)

仕入 300,000 現金 100,000  
買掛金 200,000

(出金伝票)

仕入 100,000 現金 100,000

(振替伝票)

仕入 200,000 買掛金 200,000

出金伝票	
仕 入	100,000

振 替 伝 票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	200,000	買掛金	200,000

2. 商品を¥650,000 で売り上げ、代金のうち¥450,000 は現金で受け取り、残額は掛とした。入金伝票の記入は次のとおりである。

(本来あるべき仕訳)

現金 450,000 売上 650,000  
売掛金 200,000

(入金伝票)

現金 450,000 売掛金 450,000

(振替伝票)

売掛金 650,000 売上 650,000

入金伝票	
売掛金	450,000

振 替 伝 票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	650,000	売上	650,000